

(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3236228号
(U3236228)

(45)発行日 令和4年2月7日(2022.2.7)

(24)登録日 令和4年1月28日(2022.1.28)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 B 96/20 (2006.01)

A 4 7 B 96/20

E

A 4 7 B 47/04 (2006.01)

A 4 7 B 47/04

B

評価書の請求 未請求 請求項の数 10 O L (全12頁)

(21)出願番号 実願2021-600133(U2021-600133)
 (86)(22)出願日 平成31年2月26日(2019.2.26)
 (86)国際出願番号 PCT/MY2019/050013
 (87)国際公開番号 WO2020/175978
 (87)国際公開日 令和2年9月3日(2020.9.3)

(73)実用新案権者 520064252
 レヨ ホールディングス エスディーエヌ
 ビーエイチディー
 マレーシア国 8 3 3 0 0 ジョホール ,
 バトゥー パハト カワサン ペリンダス
 トリアン スリ ゲーディング ナンバー
 . 1 0 ジャラン ワワサン 4
 (74)代理人 100169904
 弁理士 村井 康司
 (74)代理人 100175617
 弁理士 三崎 正輝
 (72)考案者 テック ライ オン
 マレーシア国 ジョホール , 8 1 1 0 0
 ジョホール バル , タマン アダ ハイ
 , ジャラン アダ 2 / 5 , 4 1

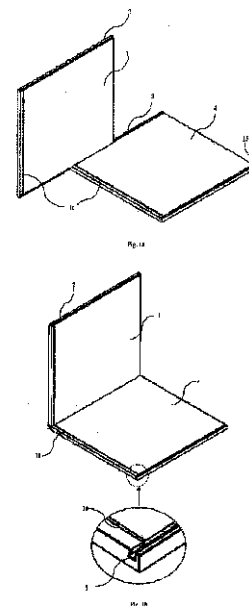
(54)【考案の名称】 パネル組立品

(57)【要約】 (修正有)

【課題】異なる家具形態に簡単に組み立てられるようにするための補強型コネクタを備えるパネル組立品を提供する。

【解決手段】家具ユニットを作り上げるために使用するパネル組立品であって、組立品は、第2のパネル4に形成された相補的な溝3と摺動自在に係合し且つそこに保持される少なくとも1つの突出する舌部2を有する第1のパネル1を含み、舌部は、舌部の少なくとも1つの表面に、舌部の構造的完全性を向上させるが、舌部と溝との間の相対的な摺動を可能にする積層材を有する。

【選択図】図1 a



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

家具ユニットを作り上げるために使用するパネル組立品であって、
前記組立品は、第 2 のパネル（4）に形成された相補的な溝（3）と摺動自在に係合し且つそこに保持される少なくとも 1 つの突出する舌部（2）を有する第 1 のパネル（1）を備え、
前記舌部（2）は、前記舌部（2）の少なくとも 1 つの表面に前記舌部（2）の構造的完全性を向上させるが、前記舌部（2）と前記溝（3）との間の相対的な摺動が可能である、積層材（5）を有する、
パネル組立品。

10

【請求項 2】

前記第 1 のパネル（1）は、前記舌部（2）を前記溝（3）と係合させるために、前記第 2 のパネル（4）に対して実質的に垂直な状態で摺動される、
請求項 1 に記載のパネル組立品。

【請求項 3】

前記積層材（5）は、前記舌部（2）の前記少なくとも 1 つの表面を覆うように、前記舌部（2）に沿って摺動自在に受け入れられるように適合されたカバーの形態にある、
請求項 1 に記載のパネル組立品。

【請求項 4】

前記積層材（5）は、前記第 1 のパネル（1）の前記少なくとも 1 つの表面に、それらの間に配置される結合材により取り付けられ、下側の面が前記第 1 のパネル（1）に接している前記積層材（5）の少なくとも一部分が、除去されて、前記舌部（2）が形成されている、
請求項 1 に記載のパネル組立品。

20

【請求項 5】

前記舌部（2）は、前記第 1 のパネル（1）の 1 つの側面に沿って連続的に延在し、且つ前記第 2 のパネル（4）の 1 つの側面に沿って連続的に延在する前記溝（3）に摺動自在に挿入される、
請求項 1 に記載のパネル組立品。

【請求項 6】

前記舌部（2）は、前記舌部（2）の長手方向に平行に延在する、直立の側壁（6）及び傾斜した側壁（7）を有する、
請求項 1 に記載のパネル組立品。

30

【請求項 7】

前記溝（3）は、前記溝（3）の長手方向と平行に延在する、直立の側壁（8）及び傾斜した側壁（9）を提供し、それにより、前記溝（3）の前記傾斜した側壁（9）は、前記第 1 のパネル（1）と前記第 2 のパネル（4）とが接続されると、前記舌部（2）の前記傾斜した側壁（7）に並置される、
請求項 6 に記載のパネル組立品。

【請求項 8】

前記舌部（2）の前記傾斜した側壁（7）は、前記溝（3）内に前記舌部（2）が係合している間、前記溝（3）の前記並置された傾斜した側壁（9）によって摩擦係合される、
請求項 7 に記載のパネル組立品。

40

【請求項 9】

1 つの側面に少なくとも 1 つの積層舌部（2）を備えてそれぞれ構成された複数の第 1 のパネル（1）と、1 つの側面に少なくとも 1 つの相補的な溝（3）を備えてそれぞれ構成された同様の数の第 2 のパネル（4）とを含む、家具ユニットであって、
各第 1 のパネル（1）は、対応する第 2 のパネル（4）と、前記積層舌部（2）及びその対応する溝（3）によって、摺動自在に係合されて、前記家具ユニットを形成する、
家具ユニット。

50

【請求項 10】

前記第 1 のパネル (1) 及び前記第 2 のパネル (4) にはそれぞれスロット (10) が設けられており、前記第 1 のパネル (1) 及び前記第 2 のパネル (4) 内のそれぞれのスロット (10) は、互いに位置合わせされて、前記第 1 のパネル (1) と前記第 2 のパネル (4) とを連結するように、第 3 のパネル (11) を摺動自在に受け入れる、請求項 9 に記載の家具組立品。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、家具ユニットを作り上げるために使用するためのパネル組立品に関する。より詳細には、本考案は、異なる家具形態に簡単に組み立てられるようにするための補強型コネクタを備えるパネル組立品に関する。

10

【背景技術】**【0002】**

従来、家具ユニットは、各パネルに孔が設けられている複数のパネルから組み立てられ、これら孔は、パネルが組み立てられるときに、別のパネルの対応する孔と位置合わせされる。位置合わせされた孔は、家具ユニットを形成する組立品として、パネルがしっかりと確実に固定されるようにするために、締結手段がその孔に挿入され得る。しかしながら、そのような家具ユニットは、家具ユニットを組み立てるために二人以上を必要とすることが多いため、望ましくない。それゆえ、そのような不便さは、消費者を、従来の家具ユ

20

【0003】

ニットの様々な形態が利用可能であるが、外部締結手段を必要とすることなく、家具ユニットを組み立てるためにこれまで使用されたパネルは、十分に満足のいくものではなかった。パネルが木片から製造されることは一般的である。それゆえ、組み込み式コネクタのほとんどがパネルと一体的に形成されているため、組み込み式コネクタが、亀裂及び破損などの損傷を受けることは避けられない。舌部は、その製造中に損傷されることがあり、例えば、切り取り手段がパネルの一部を除去して舌部を形成するときに、舌部の鋭い縁が破損されることがある。さらに、パネルの組み込み式コネクタは、組み立て済みの家具ユニット内で、応力に耐えることができず、組み込み式コネクタにかなりの物理的損傷を生じるかもしれない。

30

【0004】

パネル組立品に関する従来技術より優れたいくつかの特許技術がある。米国特許第 4869564 号明細書には、複数の正確なサイズの覆われたパネルと、モジュール組立品とで構成された、容易に組み立て可能な家具が開示されている。モジュール組立品は、解放可能に固定可能なコネクタ部材と、端面を有する、正確なサイズの覆われた支持パネルとを含む。複数のパネルの少なくとも第 1 のパネルは、プラグ部材及び棒状部材からなる少なくとも一対のコネクタによって、支持パネルに固定される。プラグ部材は、その外周縁に凹部が設けられており、且つ支持パネル内のそれぞれのシリンダー状ボア内に配置されるように適合されている。棒状部材は、第 1 のパネルに固定するためのネジ付き端部、及びプラグ部材の凹部内に配置するためのヘッド部を有する、反対側に配置された端部を有する。

40

【0005】

別のパネル組立品が、中国特許第 103565136 号明細書に開示されている。この特許では、木板を組み立てる方法、及び家具を組み立てる方法が開示されており、異形柱 (profile column) が主に使用され、フレームのチューブ状の多角形ピラー

50

を形成するために組み立てられたマルチアングル締結具用ウッドブロック構造が、多角形構造部材に取り付けられて、家具用木板が構成される。そして、輪郭が直立で、外観が中空のシリンダー状セクションでは、外壁は、少なくとも1つの取付用スロット及びスロット用節 (s l o t k n o t t i n g) を備え、その見える表面に、一層のコーティング層を備える。

【 0 0 0 6 】

しかしながら、米国特許第 4 8 6 9 5 6 4 A 号明細書及び中国特許第 1 0 3 5 6 5 1 3 6 号明細書に開示されているパネル組立品用のコネクタは、その構造的完全性を強化するための特徴を全く備えていない。それゆえ、上述の従来技術の家具組立品は、上記で強調した問題の影響を受けやすい。

10

【 考 案 の 概 要 】

【 考 案 が 解 決 し よ う と す る 課 題 】

【 0 0 0 7 】

それゆえ、異なる家具形態への家具ユニットのその製造及び組み立ての最中に、コネクタに構造的完全性をもたらすための補強特徴を備えるパネル組立品を提供することが望ましい。

【 課 題 を 解 決 す る た め の 手 段 】

【 0 0 0 8 】

本考案は、家具ユニットを作り上げるために使用するためのパネル組立品であって、組立品は、第 2 のパネルに形成された相補的な溝と摺動自在に係合し且つそこに保持される少なくとも1つの突出する舌部を有する第 1 のパネルを含み、舌部には、舌部の少なくとも1つの表面に、舌部の構造的完全性を向上させるが、舌部と溝との間の相対的な摺動を可能にする積層材が設けられる、パネル組立品を提供する。

20

【 0 0 0 9 】

好ましくは、第 1 のパネルは、舌部を溝と係合させるために、第 2 のパネルに対して実質的に垂直な状態で摺動できる。

【 0 0 1 0 】

好ましくは、積層材は、舌部の少なくとも1つの表面を覆うために、舌部に沿って摺動自在に受け入れられるように適合されたカバーの形態であってもよい。

【 0 0 1 1 】

30

好ましくは、積層材は、第 1 のパネルの少なくとも1つの表面に、それらの間に配置される結合材により取り付けることが可能で、下側の面が第 1 のパネルに接している積層材の少なくとも一部分が、除去されて、舌部を形成する。

【 0 0 1 2 】

好ましくは、舌部は、第 1 のパネルの1つの側面に沿って連続的に延在してもよく、且つ、第 2 のパネルの1つの側面に沿って連続的に延在する溝に摺動自在に挿入される。

【 0 0 1 3 】

好ましくは、舌部は、舌部の長手方向に対して平行に延在する、直立の側壁及び傾斜した側壁を有してもよい。

【 0 0 1 4 】

40

好ましくは、溝は、溝の長手方向に対して平行に延在する、直立の側壁及び傾斜した側壁を有してもよく、溝の傾斜した側壁は、第 1 のパネルと第 2 のパネルが互いに接続されると、舌部の傾斜した側壁に並置される。

【 0 0 1 5 】

好ましくは、舌部の傾斜した側壁は、溝内に舌部が係合している間、溝の並置された傾斜した側壁によって、摩擦係合されてもよい。

【 0 0 1 6 】

本考案の別の態様は、1つの側面に少なくとも1つの積層舌部を備えてそれぞれ構成された複数の第 1 のパネルと、1つの側面に少なくとも1つの相補的な溝を備えてそれぞれ構成された同様の数の第 2 のパネルと、を含む、家具ユニットを提供する。各第 1 のパネル

50

は、対応する第 2 のパネルと、積層舌部及びその対応する溝によって、摺動自在に係合されて、家具ユニットを形成する。

【0017】

好ましくは、第 1 のパネル及び第 2 のパネルには、それぞれスロットが設けられてもよく、第 1 のパネル及び第 2 のパネルのそれぞれのスロットは、互いに位置合わせされ、第 1 のパネルと第 2 のパネルとが連結されるよう、第 3 のパネルを摺動自在に受け入れる。

【0018】

当業者は、本考案が、目的を達成し、且つ述べた結果及び利点並びにそれらに固有のものを得るようにうまく適合されていることを容易に認識するであろう。本明細書で説明する実施形態は、本考案の範囲を限定することを意図するものではない。

10

【0019】

本考案の理解を促すことを目的として、添付図面には、好ましい実施形態が示されており、以下の説明と関連付けて考慮するときにこれを見ることで、本考案、その構成及び動作及びその多くの利点が、簡単に理解及び認識される。

【図面の簡単な説明】

【0020】

【図 1 a - 1 b】本考案の第 1 及び第 2 のパネルを有するパネル組立品を示す図である。

【図 2】本考案による第 1 のパネル用の舌部の第 1 の実施形態を示す図である。

【図 3】パネル組立品によって構成された家具ユニットの第 1 の実施形態を示す図である。

20

【図 4 a - 4 b】支持リブが取り付けられた家具ユニットを示す図である。

【図 5 a - 5 b】上部パネルを受け入れる家具ユニットを示す図である。

【図 6 a - 6 c】上部パネルに係合し且つそれから係合解除されるロック手段を示す図である。

【図 7 a - 7 b】パネル組立品によって構成された家具ユニットの第 2 の実施形態を示す図である。

【図 8】パネル組立品によって構成された家具ユニットの第 3 の実施形態を示す図である。

。

【図 9 a - 9 b】家具ユニットを反動力によって固定するためのパネル組立品の傾斜スロットを示す図である。

30

【考案を実施するための形態】

【0021】

本考案は、いくつかの異なる実施形態で提示され、且つ様々な異なる構成及び技術を組み込むが、本考案の様々な実施形態は、いくつかの共通の要素を有する。本考案の概念によれば、パネル組立品は、舌部 - 溝形態によって、第 2 のパネルと摺動自在に係合可能な第 1 のパネルを備え、舌部は、舌部を強化する補強特徴を有する。

【0022】

本考案について、ここで、例として図面を参照して、詳細に説明する。

【0023】

図 1 a 及び図 1 b は、家具ユニットを作り上げるために使用するパネル組立品を示す。この特定の実施形態では、組立品は、第 2 のパネル 4 に形成された相補的な溝 3 に摺動自在に係合し且つそこに保持される少なくとも 1 つの突出する舌部 2 を有する第 1 のパネル 1 を含む。例として、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 は、通常、木質繊維、木片又は木材から製造され、これには、高温、圧力、及び結合樹脂又は接着剤の使用を伴い得る。これらの材料は、一般的に壊れやすく、パネルが突然の衝撃又は応力の上昇を受けると、パネルが破損したり、パネルに亀裂が生じたりする。これらの材料が、組み立て済みの家具ユニット内の応力に耐えることができるようにするために、舌部 2 は、舌部 2 の少なくとも 1 つの表面に、ラミネートすなわち積層材 5 を備える。有利なことに、家具ユニットの製造又は組み立ての最中に舌部 2 内に誘発される撓みを減少させるために、積層材 5 は、舌部 2 の表面に取り付けられ得る。それゆえ、積層材 5 は、舌部 2 の表面での破損の発生

40

50

を抑制する。

【 0 0 2 4 】

さらに、積層材 5 は、舌部 2 及び溝 3 の構造的完全性を向上させるが、それにもかかわらず、舌部 2 と溝 3 との間の相対的な摺動を可能にする。この好ましい実施形態では、第 1 のパネル 1 は、舌部 2 を溝 3 と係合させるために、第 2 のパネル 4 に対して実質的に垂直な状態で摺動される。それゆえ、舌部 2 と溝 3 が係合している間、積層材 5 は、舌部 2 と溝 3 との間に挟まれている。本考案による積層材 5 は、例として、限定されるものではないが、プラスチック製積層材、又は木製積層材であるベニヤとし得る。

【 0 0 2 5 】

積層材 5 は、様々な実施形態において構成され得る。第 1 の実施形態（図 2）では、積層材 5 は、最初に、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 の少なくとも 1 つの表面に取り付けられ、それらの間には結合材が配置される。好ましくは、第 1 のパネル 1 の各表面に、積層材 5 が取り付けられて、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 が積層材 5 内に完全に包み込まれるようにする。そして、各積層材 5 は、積層材 5 を第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 の表面に保持するために、その後熱処理されて、互いに結合される。好ましくは、熱処理された積層材は、結合材を硬化するために、一定の持続期間が与えられる。

【 0 0 2 6 】

有利なことに、各積層材 5 は、それが取り付けられた表面のそれぞれの全体にわたって予負荷力を生じさせ、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 の各表面の内部が予負荷される。下側の面が第 1 のパネル 1 に接している積層材 5 の少なくとも一部分は、切り取り手段によって除去されて、第 1 のパネル 1 の積層材 5 から舌部 2 が形成され、その切除部分にわたって少なくとも 1 つの露出面 1 3 を形成する。同様に、下側の面が第 2 のパネル 4 に接している積層材 5 の少なくとも一部分が、切り取り手段によって除去されて、第 2 のパネル 4 の積層材 5 から溝 3 が形成される。その製造中、積層材 5 によって生じた予負荷力は、第 1 のパネル 1 を強化し、且つまた、切り取り手段によって第 1 のパネル 1 の表面に誘発される応力を低減させる。露出面 1 3 は、誘発された応力によって簡単に破損し得る鋭い縁 1 6 を備え得る。しかしながら、鋭い縁 1 6 は積層材 5 が境界にあるので、第 1 のパネル 1 のその部分が除去された後も、鋭い縁 1 6 は依然として無傷のままである。積層材 5 は、切り取り手段によって誘発される応力を低減させ、それゆえ、鋭い縁 1 6 での破損の発生を減少させる。それゆえ、露出面 1 3 は、長手方向に沿って滑らかなプロファイルすなわち輪郭で形成され、破損のリスクを低減させる。同様に、第 2 のパネル 4 に溝 3 を形成している間、積層材 5 は、切り取り手段によって誘発される応力を低減させ、それゆえ、溝 3 の周りの鋭い縁 1 6 での破損の発生を抑制する。材料除去プロセス後、鋭い縁 1 6 は無傷のままである。

【 0 0 2 7 】

それと同時に、切り取り手段によって除去されなかった積層材 5 の残存部分は、依然として、第 1 のパネル 1 の表面に予負荷力を誘発する。この特徴は、舌部 2 が溝 3 によって係合されるとき、舌部 2 を無傷のままにすることができる。また、予負荷力は、第 1 のパネル 1 が、傾けられる、押される、又は、引かれるときに、係合された舌部 2 に誘発される応力を相殺し得る。舌部 2 の露出面 1 3 には、さらに、剛性及び強度を高めるために積層材 5 が取り付けられてもよい。本考案の第 1 の実施形態は、第 1 のパネル 1 の表面上での破損の発生を減少させて、舌部 2 の製造に好適である。しかしながら、結合材は、積層材 5 が第 1 のパネル 1 の表面に接触すると、積層材 5 を第 1 のパネル 1 の表面に簡単に接着し得るため、結合材は熱処理を必要としないかもしれない。

【 0 0 2 8 】

第 2 の実施形態（図示せず）では、積層材 5 は、舌部 2 に沿って摺動自在に受け入れられるように適合されたカバーの形態であり、舌部 2 の少なくとも 1 つの表面を覆う。この特定の実施形態では、第 1 のパネル 1 の表面は舌部 2 を備えて形成されるため、カバーは、舌部 2 の形状に従って製造される。カバーは、舌部 1 の 1 つの表面又は全ての表面を覆い得る。結合材がカバーと舌部 2 との間に配置され、その後、熱処理を受けて、カバーが舌

10

20

30

40

50

部 2 に固定される。有利なことに、カバーは、舌部 2 全体にわたって予負荷力を生じさせ、舌部 2 の各表面の内部は予負荷される。そのような特徴は、舌部 2 が溝 3 に受け入れられるときに、傾く、押す、及び引くなどの第 1 のパネル 1 の動きによって生じる応力に舌部が耐えることができるようにする。

【 0 0 2 9 】

本考案に言及すると、舌部 2 は、第 1 のパネル 1 の 1 つの側面に沿って連続的に延在し、且つ第 2 のパネル 4 の 1 つの側面に沿って連続的に延在する溝 3 に摺動自在に挿入される。しかしながら、舌部 2 は、複数の箇所で中断された舌部 2 を形成するように、いくつかのセグメントの舌部 2 によって形成されてもよい。好ましくは、舌部 2 は、舌部 2 の長手方向に対して平行に延在する直立の側壁 6 及び傾斜した側壁 7 を有する露出面 1 3 を提供する。それゆえ、舌部 2 を溝 3 に沿って摺動自在にできるようにするために、溝 3 はまた、溝 3 の長手方向に対して平行に延在する直立の側壁 8 及び傾斜した側壁 9 を提供する。第 1 のパネル 1 と第 2 のパネル 4 が接続されると、溝 3 の傾斜した側壁 9 は、舌部 2 の傾斜した側壁 7 に並置される。それゆえ、舌部 2 の傾斜した側壁 7 は、溝 3 内に舌部 2 が係合している間、溝 3 の並置された傾斜した側壁 9 によって摩擦係合される。しかしながら、舌部 2 及び溝 3 は様々な形態をとり得、例として、舌部 2 及び溝 3 は、傾斜した側壁と直立の側壁の組み合わせの代わりに、傾斜した側壁のみで構成されてもよい。

【 0 0 3 0 】

図 3 ~ 図 6 は、パネル組立品から構成された家具ユニットの第 1 の実施形態を示す。この特定の実施形態では、家具ユニットは、1 つの側面に少なくとも 1 つの積層舌部 2 を備えてそれぞれ構成された複数の第 1 のパネル 1 と、1 つの側面に少なくとも 1 つの相補的な溝 3 を備えてそれぞれ構成された同様の数の第 2 のパネル 4 とを含み得る。各第 1 のパネル 1 は、対応する第 2 のパネル 4 と、積層舌部 2 及びその対応する溝 3 によって、摺動自在に係合されて、家具ユニットを形成する。例として、舌部 2 には、積層材 5 が、それらの間に結合材がある状態で取り付けられるか、又は、舌部 2 は、カバーと一緒に摺動して、積層舌部 2 を形成し得る。さらに、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 にはそれぞれスロット 1 0 が設けられており、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 のそれぞれのスロット 1 0 は互いに位置合わせされ、第 1 のパネル 1 と第 2 のパネル 4 をインターロックする（連結する）ように、第 3 のパネル 1 1 を摺動自在に受け入れる。好ましくは、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 が第 3 のパネル 1 1 によって連結されると、第 1 のパネル 1 は、第 2 のパネル 4 と端がそろえられて、家具ユニットの表面が不均一になるのを防止する。この特定の実施形態では、第 3 のパネル 1 1 は、位置合わせされたスロット 1 0 に挿入されるように、十分に薄い。第 3 のパネル 1 1 は、実際は弾力性があり、且つ第 3 のパネル 1 1 の中央部分に背骨状突出部（*spine*）が設けられ、柔軟に動かされ得る。第 3 のパネル 1 1 には支持リブ 1 2 が取り付けられて、その構造を強化する。

【 0 0 3 1 】

例として、1 枚の第 2 のパネル 4 は、2 枚の第 1 のパネル 1 を摺動自在に受け入れるための、家具ユニットのベースパネルとし得る。それゆえ、それら第 1 のパネル 1 は、垂直方向に設置され、且つベースパネルによって対向するように離間される。第 3 のパネル 1 1 は、2 枚の第 1 のパネル 1 がベースパネルによって係合されると、位置合わせされたスロット 1 0 に挿入される。その後、支持リブ 1 2 が第 3 のパネル 1 1 に取り付けられる。上部パネルの機能を果たす別の第 2 のパネル 4 が、対向するように離間されている第 1 のパネル 1 によって摺動自在に受け入れられる。支持リブ 1 2 は、上部パネルが第 1 のパネル 1 に沿って摺動されて支持リブ 1 2 を覆うときに、上部パネルの真下に形成された 1 つのスロット 1 3 と係合するロック手段 1 4 を備え得る。この特定の実施形態では、ロック手段 1 4 は、ロック手段 1 4 をねじる動きによって、係合解除され得る。好ましくは、溝 3 の一端 1 5 は、舌部 2 が溝 3 の端部を越えて摺動するのを防止するために、積層材 5 によって覆われ得る。

【 0 0 3 2 】

図 7 a 及び図 7 b は、家具ユニットの第 2 の実施形態を示し、第 2 の実施形態は、第 1 の

実施形態の改良例である。この特定の実施形態では、上部パネルは、上部パネルの上面及び底面に、対向する溝 3 が形成されており、追加的な第 1 のパネル 1 が上部パネルに摺動自在に積み重ねられて、複数の仕切壁のある家具ユニットを形成してもよい。パネル組立品はまた、図 8 に示すような家具ユニットの第 3 の実施形態として構成されてもよい。この特定の実施形態では、第 2 のパネル 4 は、より多くの第 1 のパネル 1 を受け入れるために複数の溝 3 を備えて構成されて、家具ユニット内により多くの仕切壁を設け得る。

【 0 0 3 3 】

図 9 a 及び図 9 b を参照して説明すると、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 のスロット 10 は、傾斜スロットの形態にあってもよく、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 のスロット 10 は、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 のそれぞれに対して、ある傾斜角度で構成され得る。ひとたび第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 内のスロット 10 が互いに位置合わせされると、第 3 のパネル 11 は、そこを通して摺動されて、第 1 のパネル 1 と第 2 のパネル 4 を連結させている。有利には、スロット 10 は、第 3 のパネル 11 の一部分を曲げ、それにより、スロット 10 内の曲げられた部分によって生じる反力によって、曲げられた部分を弾性的に固定する。

10

【 0 0 3 4 】

さらに、第 1 のパネル 1 及び第 2 のパネル 4 の各表面には積層材 5 が取り付けられて、家具ユニットの構造的完全性を向上させ得る。そのような家具ユニットの別の利点は、その剛性及び強度を維持しつつ、外部締結手段によって固定させる必要がない点にある。

20

【 0 0 3 5 】

本開示は、添付の特許請求の範囲、並びに上記の説明の内容を含む。本考案は、ある程度詳細にその好ましい形態を説明したが、好ましい形態の本開示は、例示としてのみなされ、構成及び組み合わせ及び複数の部分の配置構成の詳細における多数の変更が、本考案の範囲から逸脱せずに主張されてもよいことが理解される。

【 図面 】

【 図 1 a 】

【 図 1 b 】

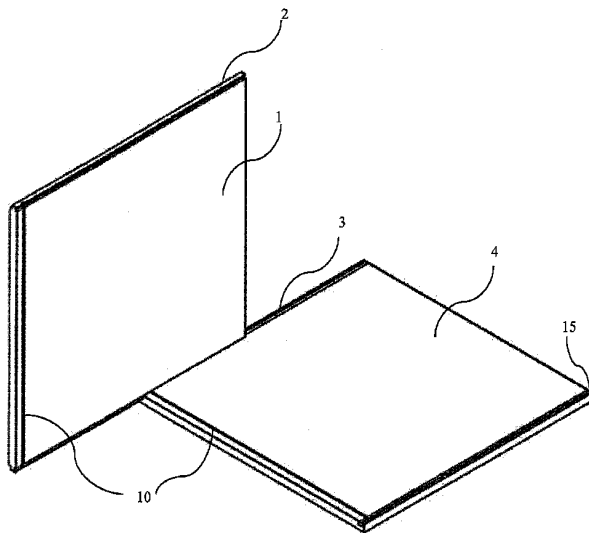


Fig. 1a

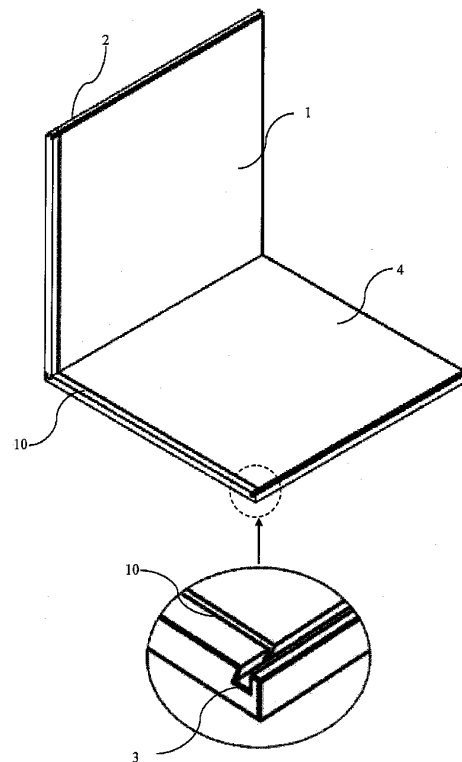


Fig. 1b

30

40

50

【図 2】

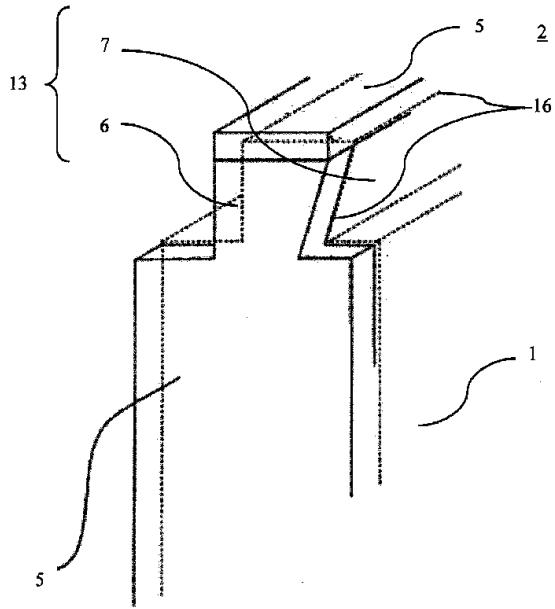
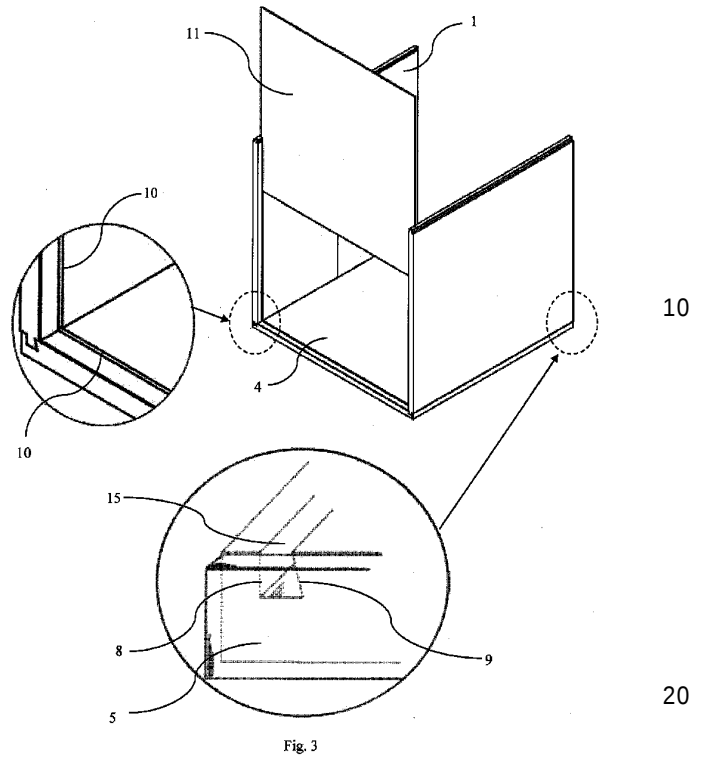


Fig. 2

【図 3】



【図 4 a】

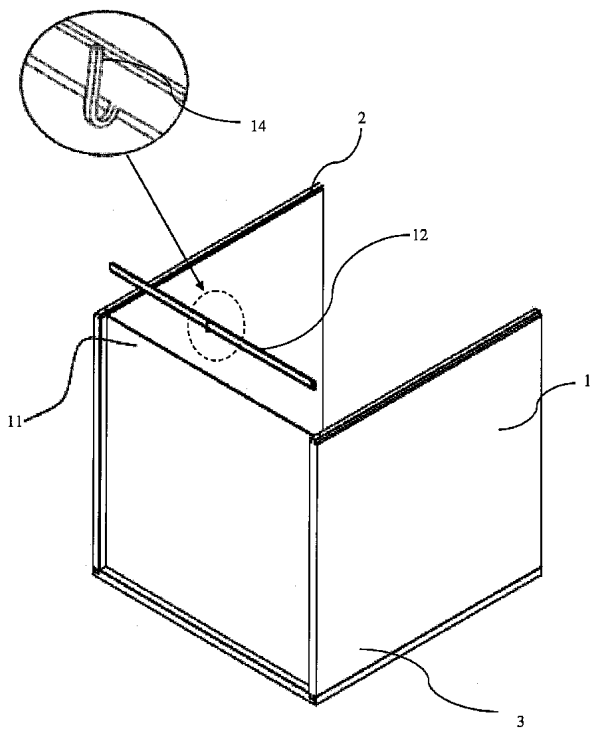


Fig. 4a

【図 4 b】

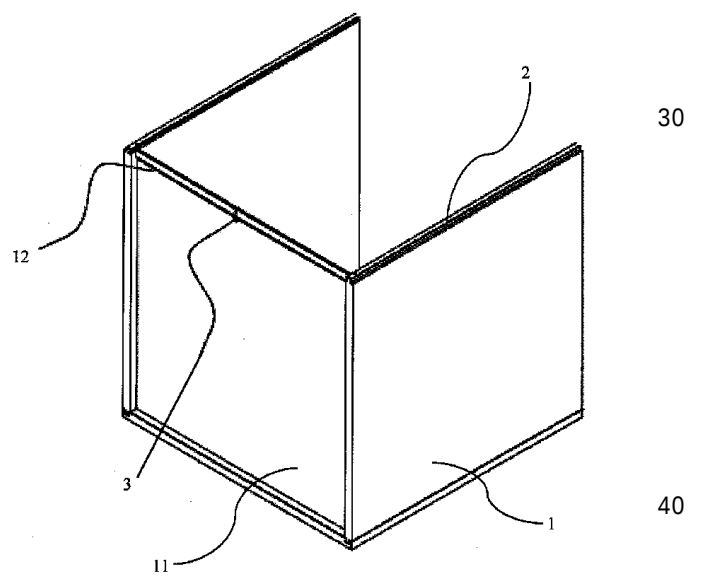


Fig. 4b

【 図 5 a 】

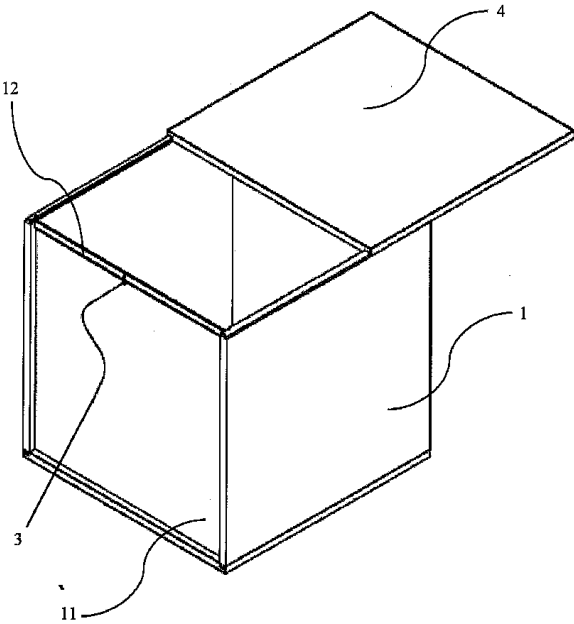


Fig. 5a

【 図 5 b 】

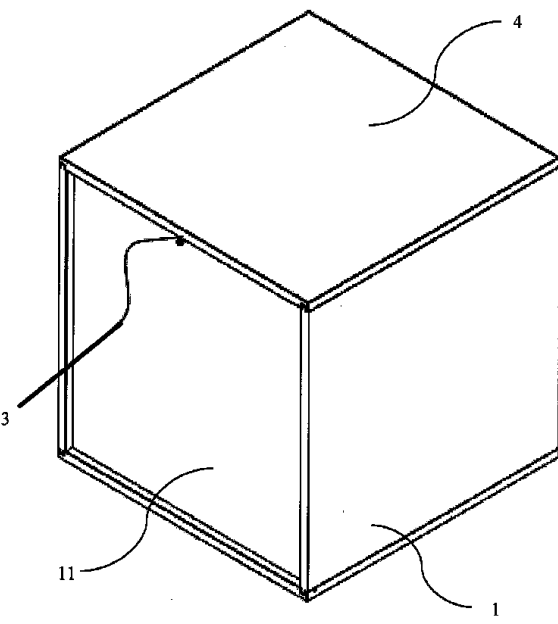


Fig. 5b

【 図 6 a 】

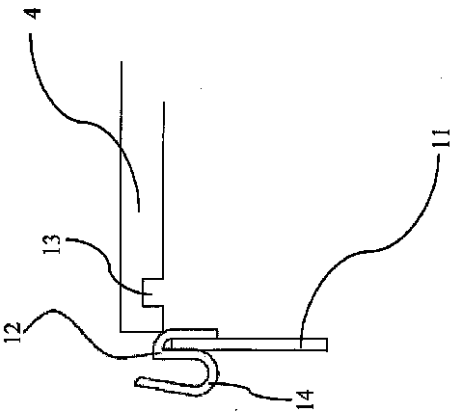


Fig. 6a

【 図 6 b 】

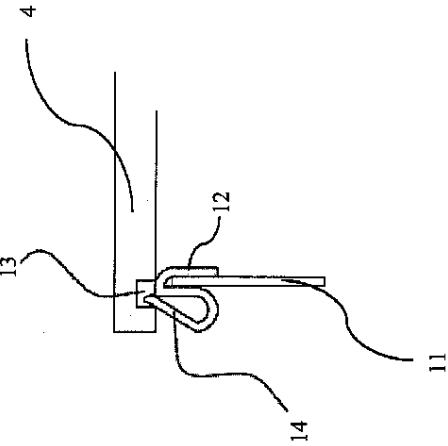


Fig. 6b

10

20

30

40

50

【図 6 c】

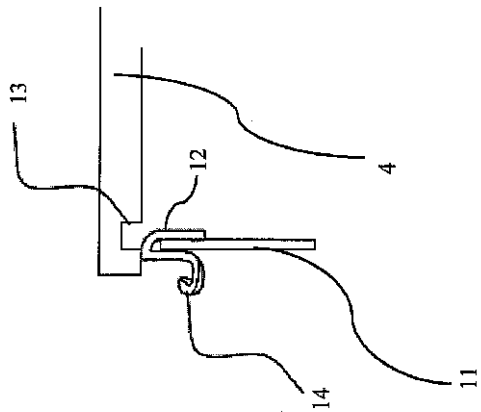


Fig. 6c

【図 7 a】

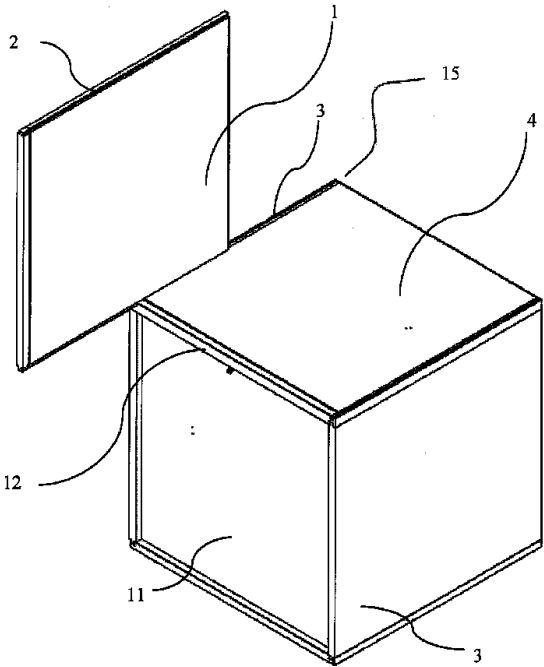


Fig. 7a

【図 7 b】

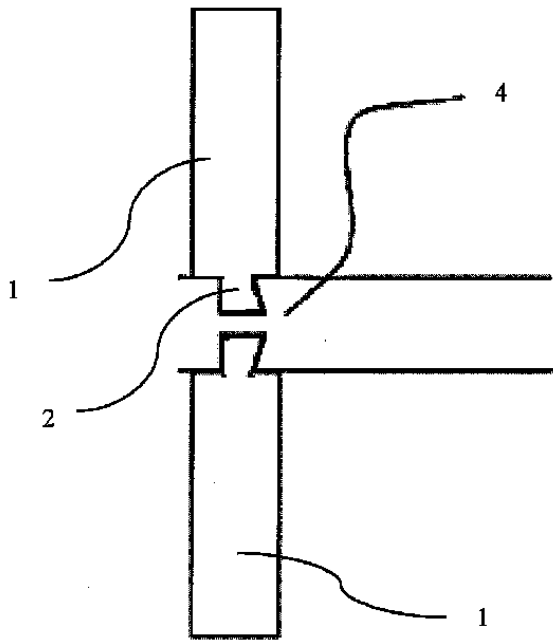


Fig. 7b

【図 8】

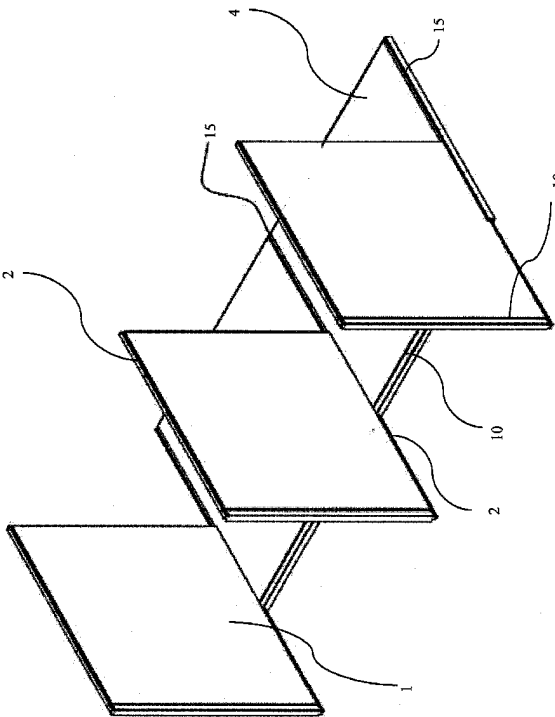


Fig. 8

10

20

30

40

50

【 図 9 a 】

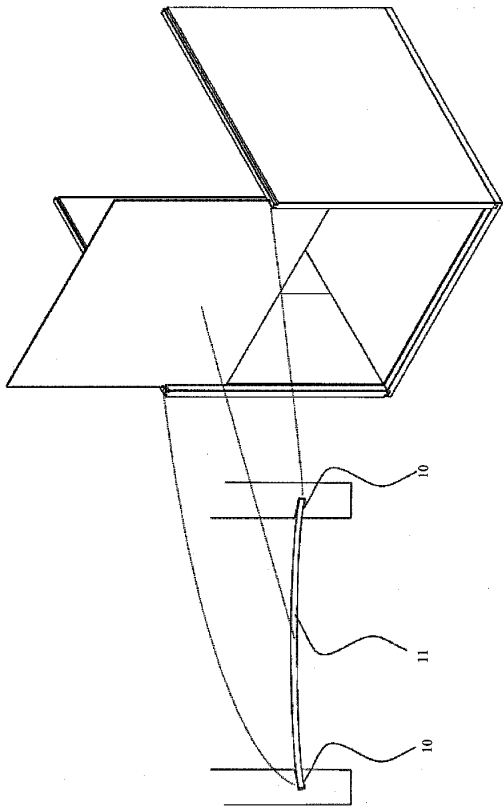


Fig. 9a

【 図 9 b 】

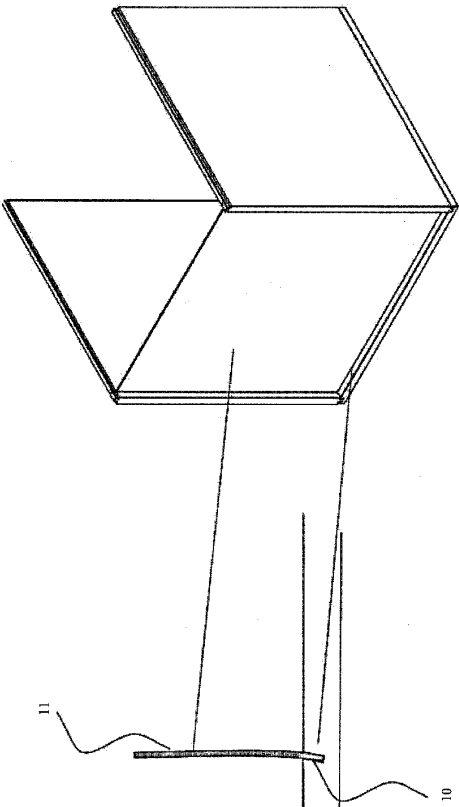


Fig. 9b

10

20

30

40

50